

創世記 16 章。

アブラムが主からの約束を受け取る場面を思い出して下さい。

空の星のように数えきれないほどの子孫、大家族が与えられる。

そして、実際に与えられる地は、ナイル川からユーフラテス川までの 30 万平方マイル。

現在のエジプトからイラク地域までです。

彼には、この広大な土地と大家族が与えられるという約束。

ただ、それには問題がありました。

アブラムは年老いて 80 代半ば、妻サライは 70 代半ば。

彼女は不妊で、彼らには子供が 1 人もいなかったのです。

サライはアブラムが主と会ったこと、そして主から約束を与えられたことを聞いて言いました。

「ねえ、現実的に行きましょうよ。私はもう 70 代半ばで、子供を産んだことがないのよ。

それなのに、空の星ほどの子孫が増えると言うなら、何かしないとイケないわ。

冷静に、現実的に考えましょう。私にいい考えがあるの。

私のエジプト人の女奴隷ハガルのところにお入り下さい。

あなたが彼女と関係を持って生まれる子供によって、私は母親になれるでしょう。」

といっても、ここでの話はホワイトハウス（ビル・クリントン）のスキャンダルとは違いますよ。（*1998 年）

これは、アブラムの地の文化では受け入れられていた慣習でした。

アブラムの出身地であるカルデア、またバビロン地域では、女性が不妊の場合、夫に自分の奴隷を与え、それで生まれた子供は正妻の子として数えられたのです。

サライが言ったことは、文化的には受け入れられており得策でしたが、従順ではありませんでした。

そして見て来たように、アブラムは、これが御父の目にかない、受け入れられる計画であるかを、御父に 1 度も尋ねませんでした。

この計画は論理的に見え、合理的、恒久的に思えたので、彼は立ち止まって祈ることを 1 度もしなかった。

アブラムの人生には、こういった事が何度も何度も繰り返されていて、彼が立ち止まって祈らない時には必ず問題が起こっています。

このように、物事に関して、時間を取って御父に話をしない時には、必ず問題が起こるのです。

私は何度それをやってしまったことでしょう。

論理的に見える事にただ飛びついた結果、現実にはそれが大惨事に繋がってしまう。

私が立ち止まって祈らなかったばかりに。

さて、アブラムは妻に言われた通りに行いました。

皆さんもこの話は知っていますね。

そしてハガルは身ごもり、そこから、この家族を揺るがすようなことが起こり始めます。

ハガルは、アブラムの子を妊娠したことを自慢げに振る舞うようになりました。

サライは嫉妬し、うらやましくて、「私には産むことができなかつたのに、ハガルは妊娠している！」

この女奴隷が鼻に付くようになり、それで、ハガルをひどくいじめます。

嫉妬、うらやみ、敵対意識。

ハガルはもう耐えられなくなりました。

創世記 16:6b-16

6b サライが彼女を苦しめたので、彼女はサライのもとから逃げ去った。

7 主の使いは、荒野にある泉のほとり、シュルへの道にある泉のほとりで、彼女を見つけた。

8 そして言った。「サライの女奴隷ハガル。あなたはどこから来て、どこへ行くのか。」

すると彼女は言った。「私の女主人サライのもとから逃げているのです。」

9 主の使いは彼女に言った。

「あなたの女主人のもとに帰りなさい。そして、彼女のもとで身を低くしなさい。」

10 また、主の使いは彼女に言った。

「わたしはあなたの子孫を増し加える。それは、数えきれないほど多くなる。」

11 さらに、主の使いは彼女に言った。

「見よ。あなたは身ごもって男の子を産もうとしている。」

その子をイシュマエル（神は聞くという意味）と名づけなさい。

主が、あなたの苦しみを聞き入れられたから。

12 彼（イシュマエル）は、野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。彼は、すべての兄弟に敵対して住む。」

13 そこで、彼女は自分に語りかけた主の名を「あなたはエル・ロイ」（El-Roi 私を見て下さる神）と呼んだ。彼女は、「私を見てくださる方のうしろ姿を見て、なおも私がここにいるとは」と言ったのである。

14 それゆえ、その井戸はベエル・ラハイ・ロイ（見ておられる方の井戸）と呼ばれた。

それは、カデシュとベレデの間にある。

15 ハガルはアブラムに男の子を産んだ。

アブラムは、ハガルが産んだその男の子をイシュマエルと名づけた。

16 ハガルがアブラムにイシュマエルを産んだとき、アブラムは八十六歳であった。

話が非常に面白い方向に展開して行きました。

ハガルは逃げ、そこに主の使いが現れます。

ところで、御言葉を学んでいる人はこれを知っておいて下さい。

ここでもまた、「初めて用いられる言葉の法則」が登場しています。

以前言いましたが、どこであれ、その言葉が初めて使われる箇所は、多くの場合、その言葉や対象を理解するためのカギとなります。

ここでの対象は、「主の使い」

ここで初めて使われている言葉で、その後、旧約聖書の中で何度も何度も、何度も出て来ます。

この言葉が非常に多くのことを解き明かしますから、よく聞いて下さい。

そうしないと、多くのことを見逃してしまいますよ。

「主の使い」というのは、普通の御使いとは異なります。

主の使いを、天の軍勢のひとりだと考えてはいけません。

私たちは、背中に羽があって頭に天使の輪があるものをよく想像しますが、全く違います。

「御使い」とは、基本的には「Messenger (メッセンジャー)」の意味で、M は大文字。

旧約聖書に出て来る「主の使い」は、非常に特別な御使いを表現する言葉。

「主の使い」は三位一体の第二位格を表す言葉で、ベツレヘムで神の御子として処女マリアから生まれる前のイエス・キリストのこと。

「Christophany」(クリストファニー：神の顕現)です。

三位一体の第二位格である神の御子は、旧約聖書の様々な場面に登場し、「主の使い」と表現されているのです。学んでいく内に分かってきますが、多くの場合、主の使いが姿を見せると人々はひれ伏して、情熱的に、熱心に彼を礼拝します。

しかし、聖書の中で、普通の御使いは、礼拝されることを絶対に拒みます。

「主の使い」は礼拝されることを受け入れたという事実が、彼が普通の御使いではないこと、実際は彼の神性、「彼は神である」ということを証明しているのです。

次に私が非常に感動したのは、この時初めて、はっきりとイエス・キリストが、もっと正確に言えば、三位一体の第二位格の神の御子が地上に姿を現わされたということ。

まさにここで、初めて、「主の使い」が登場。

「ちょっと待って。何回か前の学びで、謎の君主メルキゼデクの時にも、それがイエスだとか、三位一体の第二位格だとか言ってましたよね。」

はい、確かに言いました。

それは真実だと私は思っています。

しかし、これは意見が分かれるところ。

私は、メルキゼデクは本当の Christophany (クリストファニー)、神の御子の顕現だと信じていますよ。

聖餐のパンとぶどう酒を持って、アブラハムから十分の一の献げ物を受け取っている。

しかし多くの方は、「メルキゼデクは単にキリストの型、描写であって、実際、人として来られる前のキリストではない。イエスとして生まれる前に、この世に来られたキリストではない。」と信じています。

メルキゼデクに関しては、議論の余地があるのです。

しかしこれから言うことは、聖書を信じる者にとっては疑う余地がありません。

私がそれを指摘するのは、皆さんに退屈な神学を聞かせるためではなく、実践的なポイントがあるからです。

それはつまり、主の使いは第二位格、イエスであるということ。

これは確信を持って言うことができます。

それが真実であるがゆえに、彼が初めて登場するのがこの箇所、すなわち、信仰の父の前にではなく逃亡者の前に、男にではなく女に現れたという事に驚くのです。

皆さん、念頭に置いておいて欲しいのは、聖書時代、女性は非常に劣っていると考えられていました。

イエスの時代でも、ラビたちは毎日、このように祈っていたのです。

「主よ、あなたが私を異邦人にも、犬にも、女にも造らなかったことを感謝します。」

これが、ラビの朝のディボーションの祈り。

「主よ、私を異邦人に造らなかったことを感謝します。彼らは地獄の温度を保つための燃料にすぎませんから。」

これは「犬になりたい者などいるのでしょうか。ましてや女など。」という意味。

私が言ったものではありませんよ。私の考えではありません。

でもラビたちは、来る日も来る日もこのように祈っていました。

だから、ここで感動するのです。

主の使いが(確かにキリストですが)、初めて現れたのが、男にではなく女に、信仰の父の前でなく逃亡者の前に、彼を捜し求めていた者にではなく逃げていた者の前だったから。

ハガルは信仰一家のアブラムとサライ、その一族から、その環境から、できるだけ遠くへ、反対方向へ逃げていました。

彼女は“教会”に行っていなかったし、神を求めてはいませんでした。

奴隷の彼女が逃亡したことは違法で、それに、身ごもっていたアブラムの息子を、言うなれば誘拐したのですから、当時の文化では不道德でした。

法を犯し、不道德で、常軌を逸し、無責任で、全く反対方向に向かっていったハガル。

私はそれに驚くのです。

私は、「主の使いは1番初めにアブラハムに現れる」と思っていました。

どこへ行っても祭壇を築いた男、信仰の父、ヒーローの前に。

ところが、主がまず初めに現れたのは、彼ではなくハガル。

よく考えてみると、これはパーフェクトです。

というのは、イエスが99匹の羊を残して、迷い出た1匹の羊を捜しに行く羊飼いの話を教えて下さったから。

(ルカ 15:4-7)

イエスは良い羊飼いです。

昨夜、私は一旦話を止めて言いました。

「今夜、やっとの思いでここに来た人がいますか。

あなたは、主は私のことなど興味がないと思っている。

主から離れようと必死で逃げていたから。

主は私を嫌悪していると思っている。

してはいけないと分かっているながら、全く聞き従わなかったから。

そうしてあなたは、あらゆる問題を抱えて、今夜ここに来て、後ろの方に座って、こう考えている。

『主は僕になんか、絶対に興味がないに決まっている。

ここにいる霊的な人たちを見てみろ！ リック、タミー、他にも信仰の巨人たち。

主が興味を持っているのはこういう人間であって、僕じゃない。』」

そこで私は言ったのです。

「今日ここにいる人で、最も助けが必要な人、自分は誰よりもどうしようもないと思っている人こそ、主が1番関心を持っている人ですよ。

イエスは、『羊飼いは99匹を残して、1匹を探しに行く』と教えました。

私なら、これは論理的ではないと思います。

『まあ、99匹がいるんだし、1匹が逃げたところでどうってことない。

残念ではあるけど、私はここにまだいる羊たちを守るよ。』

でもこれは、私たちの救世主、私たちの友であるイエスの考え方、心ではありません。

彼はハガルの後を追いました。

イエスは1匹の後を追う方です。」

その礼拝の最中に電気が消えて、私たちは真っ暗な中でしばらく過ごしました。

そして電気が点いたら、若者が一人、ここに、私の目の前に立っていて、目を少し潤ませて言うのです。

「僕はハガルです。僕がそれです。」

彼は高校 3 年生で、頭の良い学生です。

しかし、主からずっと遠くまで逃げ続けていて、主を心に招いて、「自分の救い主になって下さい」と祈ったことが、まだ 1 度もなかった。

それで私は彼を書斎に連れて行き、一緒に祈ることができました。

そしたらもう、彼はニコニコして笑い始めたのです。

主がものすごく面白い形で、彼をこの集會に連れて来て下さったのですね。

後ろのあそこの席に座って、「ああ、僕のことだ。僕はハガルだ。それは僕なんだ…」考えていた。

神は彼を追いかけ、ひつつかんで、ご自分のものとして下さいました。

これは非常に大きな事ですよ。

神は同じことを、この集會でもしておられます。

ここにも 1 人か、2・3 人か、集団か、こんな風に感じている人がいるでしょう。

「あり得ない！ 私は異教徒で、反対方向に逃げているんだ！」

「私は、ありとあらゆる過ちを犯しているのに！」

そんなあなただからこそ、主は特別に関心を持ち、引き寄せ、あなたのことを思っておられます。

だから私は感動したのです。

主が確実に初めて姿を現わされたのが女性、しかもエジプト人だったこと。

道徳性が疑われ、信者たちの家から逃げている者、法に反する事を行っている者、道義に反する者にだったこと。

その人に主は言われました。「ハガル。」

ハガルは驚愕し、感動し、現れた主を呼びます。

ここでいくつか見てみましょう。

先ず、主がハガルに与えた啓示です。

主は彼女が逃げていたあの荒野の中で、彼女を追いかけ、見つけ出し、ご自身を明らかにされました。

その後の、主の啓示の後のハガルの反応を、彼女が言ったことを注意してよく見て下さい。13 節。

13 そこで、彼女は自分に語りかけた主の名を「あなたはエル・ロイ」と呼んだ。

彼女は、「私を見てくださる方のうしろ姿を見て、なおも私がここにいるとは」と言ったのである。

ここで言っているのは、「私は主を捜していたか。」

答えは「NO！」

「私が主を捜していたのではありません。

でも主よ、あなたが私をご覧になりました。あなたが私を見ておられます。

私はあなたに向かって走っていたのではなく、それどころか、あなたから逃げていたのに。

私が逃げている時、主よ、あなたは追いかけて来て下さった！」

彼女は感動して、「あなたはエル・ロイ！」

これは感動から出た言葉です。

私たちの神の新しい名がここで紹介されました。

「エル・ロイ」（私を見てくださる神）

そして、「私を見て下さる方のうしろ姿を、私は捜していたか。」

答えは「NO！」

「私が主を捜していたのではありません。

でも、主は私を捜し求め、私を見ておられました。

主が私を見つけて下さったのです。」

何年も前に、国中で大きな伝道キャンペーンが行われて、みんなが自分の車に「I found it!」(私は見つけた!) というバンパーステッカーを貼っていました。

覚えている人もいるでしょう。

ビルボードやテレビのコマーシャルで行われていた「I found it!」(私は見つけた!) キャンペーンには、良い面もありました。

私は、国への伝道のこの働きには、大変感謝しています。

ただ、神学的には、とても引がかかったのです。

なぜなら、私たちは何ひとつ見つけてはいないから。

私は、「He found me!」(主が私を見つけて下さった!) というバンパーステッカーを見たいです。

これが真実だから。

あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり (エペソ 2:1)

あなたは死んでいた。私は死んでいた。

死人は何も見つけません。

人が死ねば、その人はもう死んでいるのです。

それだけです。単なる死人です。

ローマ 3:10-11

10 義人はいない。一人もいない。

11 悟る者はいない。神を求める者はいない。

私が、主を見つけたのではありません。

主が、私を見つけて下さいました。

主が、私を追いかけて来られたのです。

主は、あなたにも同じことをされました。

主が、あなたを見つけ、あなたを選んで、ご自身をあなたに現され、信仰を与えて下さった。

主が、あなたを見つけて下さった。「He found you」

今夜ここにいらっしゃる皆さんの大半は「信じる者」だと思いますが、あなたがそうである唯一の理由は、主があなたを見つけて下さったからなのです。

詩篇 139 : 7

私はどこへ行けるでしょう。 あなたの御霊から離れて。

どこへ逃れられるでしょう。 あなたの御前を離れて。

今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コースン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波

DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

※インターネットのメッセージを文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。
どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。